

福祉の現場から ～ボランティアから見えてくるもの～

新人の方へのエール

四月も後半を過ぎようとしています。四月から採用された新人さんは、そろそろ疲れもでてきているのではないのでしょうか。

よく言われることですが

まずは「三日」辛抱。

次は「三か月」辛抱

一年辛抱・・・仕事の全貌が初めてわかる

「三年」たって、一人前。

三年辛抱できれば、どんなポジションでも大丈夫。頑張ってくださいと思います。

新人のみなさんにとって一番大変なのは、やはりコミュニケーションだと思います。

同僚や上司にくわえて利用者さん。慣れるまでは本当に大変ですね。

利用者さんとのコミュニケーションで、突然怒られたりして対応がよくわからず、落ち込んでいる方も少なからずおられるのではないかと、思います。

そのとき覚えておいてほしいのは、クレームをつけたり、突然怒ったりしている方は「認知症」という病気の方だ、ということです。

つまり普通の人が見ている感覚と「認知症の方」が、見ている風景は違うかもしれないということです。

若い女性のスタッフさんを「自分のところのいたらないお嫁さん」と思っていたり「誰か、に投影してきているかもしれない」と、ということなのです。

そしてみなさん、幸いにも「忘れてくれる」という「特技」をお持ちです。

コミュニケーションで行き詰った時は、経験豊富な先輩に、それとなく尋ねてみてもよいと思います。

「ああ、あの人はいつもそんなもんよ」

先輩も忙しいので、なかなか指導はしてくれないかと思いますが、そうと分かるだけでもずいぶん違うと思います。

また、自分がちゃんと対応しているのか、間違った対応をしていないのか、冷静に振り返ることも大切です。

とにかく、行き詰まり、分からないことを分からないままにするのが一番よくないことです。

はっきり原因をつきとめ、納得することが、「次のステップ」につながります。